

# 2001年 卒業研究要旨

## 若者のコミュニケーションの特質に関する研究

### ー携帯電話使用に着目してー

加藤 未来

携帯電話は、ここ数年で急速に普及した。2001年9月の時点で、携帯電話・PHSの個人利用率は74.8%となり、4人に3人が利用する時代となった(野村総合研究所2001「情報機器やサービスの利用に関するアンケート」)。私たちはすでに、携帯電話を利用したコミュニケーションを当たり前のように行っている。携帯電話は、少なくとも私にとってはなくてはならないものであるし、家に忘れて外出すると、とても不安になるようなものである。

しかし、携帯電話が普及してから「現代の若者の人間関係は希薄化している」という話を良く聞くようになった。「広くて浅い人間関係」しか結べない若者たちにとって携帯電話は必需品になっているという。それは、「深いつながり」がないために、常に連絡を取り合っていないと「人間関係」が確認できないためだというのであるが、本当にそうなのだろうか。

携帯電話という新しいコミュニケーション・メディアが私たちのコミュニケーションや人間関係にどのような「影響」を与えているのか。また、私たち現代の若者の人間関係は「希薄化」しているのだろうか。もし、そうなのだとしたら、いったいつから、どのような原因により「希薄化」したのか。以上のようなことを明らかにすることが、この論文の目的である。

パソコンや携帯電話・PHSが普及し、他人との関係やコミュニケーションの取り方が変化したことは確かである。また、それらの情報機器を使ってメールを送るという行動一つをとっても、いつの間にかルールや常識が出来上がっており、その使い方にそった新しい情報機器が開発されるなど、使う方の行動と情報機器の進化は切り離して考えられない。したがって、今日の生活者の情報行動を分析するためには、情報機器の使い方だけでなく、価値観やライフスタイル、消費行動、さらに他者との関係や帰属集団、といったものを含めて分析しなければならないだろう。

したがって、まず第1章で現代の若者の特質について、世代ごとの若者像をみていくことにより考察していく。そして第2章では、固定電話から携帯電話への歴史的変遷をみるとともに、携帯電話の特性や若者たちと携帯電話の関係を検討していく。そのうえで、第3章では私が行った「学生のネット&ケータイ使用によるコミュニケーションの実態調査」のデータをもとに、実際の若者の携帯電話使用状況への着眼を通して現代の若者の人間関係について考察していきたい。